

企業名： タムラ製作所

レポート名： CORPORATION REPORT 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

サステナビリティに関する9項目のマテリアリティが特定されており、特定までのプロセスが公開されていることから、当企業がどの分野を重視しているのかというのが分かりやすく表れている。また各マテリアリティがSDGsのどの分野と深くかかわっているのか表にされており、SDGsの達成について重視した事業展開を行っていることが分かった。中期経営計画で掲げられているOneタムラ戦略では、「将来へ挑戦する事業戦略」「働きがいを目指す働き方改革」「効率を高める業務改革」の3つが三位一体の取り組みとして紹介されていて、直近の未来だけではなくその先を支える市場・事業を見据えており広く長い視点で経営をとらえているのが分かった。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

グループ全体で注力する市場として「車載」「パワーエレクトロニクス」「IOT・次世代通信」が掲げられており、前倒しして電気自動車や再生可能エネルギーへの転換が進んでいるとあり、カーボンニュートラルの急速な進展で今後発展が見込める市場に関わることが理解できる。また目指す市場に対して当会社が実際に販売するものが事業別に写真付きで表示されており、事業の社会価値の項目の中に現在どの分野で利用されているのかが説明されているため知識がなくても事業の強みが分かりやすかった。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

CSR目標と実績の項目で、各項目にある重要課題に関して現在の目標と達成率、今後の目標が一覧で記載されている。またその達成率を天気マークで表示しているため視覚的にどれほどの項目で目標を達成できているのかがわかりやすい。また選択したマテリアリティをそのままにするのではなくCSR経営委員会で協議を続けるとされているため、変化する社会情勢に対して柔軟に解決すべき課題を変更できると思われる。タムラ製作所の製品は各機械製品やインフラなどの部品として使われているため、社会を支える土台の部分であるといえる。そのため高品質な製品を提供できる存在として社会に必要とされ続けると考えられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

社会で重要視されているSDGsに対してすべての事業がかかわりを持っているため、どの事業についても社会に貢献する人材に慣れる機会を得られると思う。また売り上げでは海

外の割合が約60%、従業員の国籍では日本が27%、中国が40%、その他アジアが25%と国際色豊かな環境で働くことができ、グローバル人材になる機会をととても得やすい。社会で重要視されているカーボンニュートラルに対して新たな技術や市場に関わるなど、現在の環境に満足せず将来を見越した経営をしているので、新たな事業に挑戦するチャレンジ精神を身に着けることができる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

事業の説明は多岐にわたっており、会社全体や事業の方向性については詳細に書かれているため、企業の説明としては十分伝わった。ただ、関わりの深い社会問題として「働き方改革の推進」、マテリアリティの一つとして働き甲斐の実現と書かれているが、この統合報告書ではCSR目標と実績の欄で表記されている部分と、「社会・ガバナンストピック」のページ半分に書かれているのみだった。もちろんこの部分から特殊な有給休暇の取り方や在宅勤務制度、コンプライアンス研修といった取り組みが行われているのは読み取れるが、もう少し詳しい情報を得たいと思った。さらに地域別従業員比のグラフからみられる多国籍な様子や、アジアを中心として世界各国に展開していることはグローバルな環境で働く人に対して大きな魅力だと思ったので、最後のページに地図やグラフで表すだけでも伝わるがそれ以上にアピールしてもいいのではないかと思った。